

アジア社会文化研究会

学生プロジェクト 2011

シンポジウム「資料から問い直す地域研究のあり方」

午前の部 10:00～

開会挨拶（趣旨説明）：高井 龍（広島大学大学院総合科学研究科 博士課程）

セッション1：テーマ「資料といかに向き合い、なにを読み解くか」

研究分野、研究対象によって異なる「資料」の多様性を明らかにしながら、分野横断的なつながりを模索する。

司会：川口 隆行（広島大学大学院教育学研究科 准教授）

「史料翻訳の問題点—『信長公記』から見える歴史認識—」

オレクサンドル・コバレンコ（広島大学大学院総合科学研究科 博士課程）

「川端康成『禽獣』論—文字で構築する空間をめぐる—」

王 薇婷（広島大学大学院総合科学研究科 博士課程）

コメント：崔 真碩（広島大学大学院総合科学研究科 准教授）

討論

午後の部 13:30～

セッション2：テーマ「人とモノのエージェンシー」

モノのもつエージェンシー（行為能力）に注目し、人とモノが作用し合いネットワークを構築する過程や構造について、文化人類学的に明らかにすることを試みる。

司会：長坂 格（広島大学大学院総合科学研究科 准教授）

「モノの変化から見る墓と人の繋がり—現代沖縄における墓の変容を通じて—」

越智 郁乃（広島大学大学院総合科学研究科 特別研究員）

「モノの力と感情の記憶—被爆遺品の事例を通して—」

楊 小平（広島大学大学院国際協力研究科 博士課程後期）

「高等教育機関における障害学生修学支援と ICT 活用についての人類学的研究の可能性」

岡田 菜穂子（広島大学アクセシビリティセンター 特任助教）

コメント：床呂 郁哉（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 准教授）

東南アジア島嶼部を中心とした人類学的研究を行う。著書に『越境：スルー—海域世界から』（岩波書店、1999年）、『ものの人類学』（床呂郁哉・河合香史 編、京都大学学術出版会、2011年）。

討論

セッション3：総合討論「私たちにとって資料とは何か」

参加無料

参加自由です。ご来場お待ちしております。

12/23(祝)

午前 10 時～午後 5 時

開催場所：広島大学総合科学部 第一会議室
(広島県東広島市鏡山 1-7-1)

■主催：広島大学 アジア社会文化研究会（総合科学研究科文理融合型リサーチマネージャー養成プログラム学生独自プロジェクト企画）

■実行委員会：大久保豊、加茂川侑享、河内銀太、阪野佳子、諏訪春菜、高田唯、楊小平、西井美穂、新本万里子、越智郁乃
三木直大、水羽信男、吉村慎太郎、長坂格

■連絡先：asiasyabunken-owner@yahoogroups.jp URL: <http://ajishakaibunka.blog42.fc2.com/>

デザイン：高川雄平